

## ■標準配合と練り上がり比重

1 m <sup>3</sup> 当り使用量			1袋当り練り上がり量	練り上がり比重
ST3000-G	混練水量	合計		
770kg (77袋)	513.5kg	1283.5kg	12.8 $\frac{kg}{m^3}$	1.28g/cm <sup>3</sup>

## ■J14ロート流下値

- 練り置き時間別コンシステンシー

	混練水量 (水) L 10kg-ST	雰囲気温度 (°C)	コンシステンシー [J <sub>14</sub> ロート流下値] (秒)	
			直後	30分
	6.5	5	8.1	9.9
		20	7.5	8.5
		35	6.7	7.4

### ST3000-Gの流動性試験 (J14ロート試験)

充填モルタルの流動性試験方法 (JSCE-F541)

#### ①. 適用範囲

この基準は、ST3000-Gを適切な品質で取り扱うための、流動性試験方法について規定するものです。

#### ②. 試験用器具

##### 1. 漏斗の寸法

漏斗は図1のように黄銅製で、上端内径70mm、下端内径14mm、高さ392mmおよび厚さ3mmのものとする。J<sub>14</sub>漏斗の内容積は約630mlである。

##### 2. 漏斗以外の器具

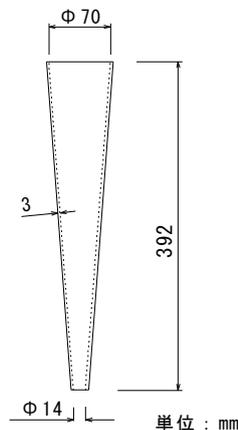
漏斗を支える台、グラウト上面をならす器具、温度計、ストップウォッチ、受け容器等を用意する。

##### 3. 漏斗の信頼性

試験装置は、標準砂を用いた、流出試験により入念にキャリブレーションしたものでなければならない。



J<sub>14</sub>ロート試験状況  
図-1 J<sub>14</sub>漏斗



#### ③. 試験方法

- 1 漏斗を台で鉛直に支持し水を通して濡らす。
- 2 試料のグラウトを漏斗内に注ぐ。流出口から少量のグラウトを流出させた後、指で流出口を押さえ、グラウトを漏斗上面まで注ぎ上面をならす。
- 3 指を離してグラウトを流出させ流出口からのグラウトが初めて途切れるまでの流下時間をストップウォッチで測定する。
- 4 漏斗内における試料のグラウトの残留状態を観察し試料のほぼ全量が流出したことを確認する。(相当量の試料が塊状で残留している場合は、そのグラウトは不適である。)

#### ④. 試験結果

流動性は前項の流下時間を秒単位で測定し、2回の平均を流下時間何秒として示す。

## ⑤. 報告

報告は下記の事項について行う。

- |      |           |
|------|-----------|
| ① 日時 | ④ バッチ番号   |
| ② 天候 | ⑤ グラウトの温度 |
| ③ 気温 | ⑥ 流下時間    |

## ■ 圧縮強度

JIS A 1108「コンクリートの圧縮試験方法」に準拠

	混練水量 (水) L 10kg-ST	雰囲気温度 (°C)	圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )		
			3日	7日	28日
ST3000-G	6.5	5	1.02	4.89	11.1
		20	4.81	7.79	13.8
		35	5.83	8.76	14.1

## ■ 終局ひずみ

28日における圧縮試験時の応力-ひずみ曲線を図-1に示す。

終局ひずみで $3,966 \times 10^{-6}$

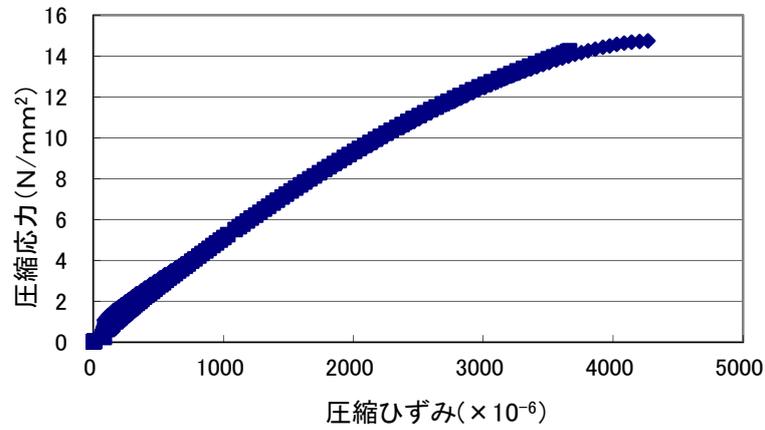


図-1 応力-ひずみ曲線